



## 平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年7月28日

上場取引所 東

上場会社名 神奈川中央交通株式会社

コード番号 9081 URL <http://www.kanachu.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 堀 康紀

問合せ先責任者 (役職名) 総務部長

(氏名) 平岩 敦

TEL 0463-22-8800

四半期報告書提出予定日 平成28年8月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	28,081	1.6	2,500	1.0	2,580	2.9	1,784	15.6
28年3月期第1四半期	27,644	6.2	2,474	22.5	2,506	24.8	1,544	10.5

(注)包括利益 29年3月期第1四半期 1,090百万円 (△32.1%) 28年3月期第1四半期 1,606百万円 (△29.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	28.94	—
28年3月期第1四半期	25.03	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第1四半期	144,557	48,693	31.0
28年3月期	144,798	47,822	30.4

(参考)自己資本 29年3月期第1四半期 44,839百万円 28年3月期 44,034百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	2.50	—	3.50	6.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	3.50	—	3.50	7.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	55,000	△1.8	3,540	△26.1	3,450	△25.3	2,010	△34.8	32.59
通期	112,700	1.0	6,210	△8.9	5,920	△7.9	3,300	5.4	53.51

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期1Q	63,000,000 株	28年3月期	63,000,000 株
29年3月期1Q	1,330,200 株	28年3月期	1,330,200 株
29年3月期1Q	61,669,800 株	28年3月期1Q	61,677,224 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(セグメント情報)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益が比較的高い水準で推移するとともに、雇用情勢が改善するなど緩やかな回復基調が続きました。一方で、輸出・生産面において、中国をはじめとする新興国経済の減速の影響に加え、円高・株安の急速な進行や英国のEU離脱などに伴う不安定な金融市場の影響により、先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況のもと、当社グループ各社は、各部門において積極的な増収策を図るとともに、経費の節減ならびに経営全般の効率化に取り組んでまいりました。その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は280億8千1百万円（前年同期比1.6%増）、営業利益は25億円（前年同期比1.0%増）、経常利益は25億8千万円（前年同期比2.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は17億8千4百万円（前年同期比15.6%増）となりました。

セグメントの業績の概況は、次のとおりであります。

#### (一般旅客自動車運送事業)

乗合業においては、藤沢駅・辻堂駅・本厚木駅～富士急ハイランド・河口湖駅線および町田駅・橋本駅～富士急ハイランド・河口湖駅線の運行が通期寄与したことに加え、法人契約に基づく学生輸送を新規に開始したことなどにより増収となりました。

貸切業においては、神奈中観光(株)が旅行会社などへ積極的な営業活動に努めたことにより新規取引先を開拓したことに加え、増車が寄与し増収となりました。

乗用業においては、高齢者や子育て世代の多様化するニーズに対応するため、前期より開始した外出時の付添いや観光案内などを行う「さぼーとタクシー」のサービスの利用が順調に推移しましたが、乗務員不足による稼働減などにより減収となりました。なお、6月に神奈中サガミタクシー(株)が、茅ヶ崎地区にて女性乗務員によるカラフルなタクシー「Candy Cab」の運行を開始し新たなお客様の獲得に努めました。また、女性乗務員が働きやすい環境づくりが認められ、国土交通省より「女性ドライバー応援企業」に認定されました。

以上の結果、一般旅客自動車運送事業全体の売上高は152億8千7百万円（前年同期比0.5%増）、営業利益は原油価格の大幅な下落に伴う燃料費の減少などにより16億3千1百万円（前年同期比19.6%増）となりました。

#### (不動産事業)

分譲業においては、平塚市めぐみが丘にて宅地分譲が順調に推移したことや、藤沢市大庭にて5月より新規宅地分譲を開始したことなどにより増収となりました。また、伊藤忠都市開発(株)と共同事業で行っている新築分譲マンション「クレヴィア戸塚」の販売が順調に推移しました。さらに、小田急不動産(株)およびセコムホームライフ(株)と共同事業で行っている「(仮称)リーフィアレジデンス伊勢原」の販売に向けた準備を進めました。

賃貸業においては、「スーパーホテル戸塚駅東口」の建設を進め、収益の拡大に向けた施策を推進しました。また、積極的なテナントの誘致活動により既存賃貸施設の高稼働率の維持に努めましたが、一括賃貸していた「厚木第一ビル」の解約により減収となりました。なお、昨年8月および9月より開始した岩手県金ケ崎町の太陽光発電所の売電収入が通期寄与しました。

以上の結果、不動産事業全体の売上高は12億9千4百万円（前年同期比4.1%増）となりましたが、「相模原中央ビル」のリニューアルに伴う修繕費の増加などにより営業利益は3億3千5百万円（前年同期比46.1%減）となりました。

#### (自動車販売事業)

自動車販売事業においては神奈川三菱ふそう自動車販売(株)にて、トラック全体の底堅い代替需要に加え、既存のお客様に対する営業活動を強化したことによりトラックの販売台数が増加するとともに、大型バスの販売も好調に推移しました。さらに、神奈中相模ヤナセ(株)にて、「メルセデス・ベンツ GLCクラス」などの新型モデルの投入により新車の販売が順調に推移するとともに、メーカー認定中古車の在庫を豊富に取り揃えお客様の多様なニーズにお応えしたことにより、中古車の販売も好調に推移しました。

以上の結果、自動車販売事業全体の売上高は68億5千2百万円（前年同期比5.5%増）となりましたが、商用車の販売台数の増加に伴う仕入原価増により営業利益は9千1百万円（前年同期比53.0%減）となりました。

#### (その他の事業)

情報サービス業においては(株)神奈中情報システムにて、グループ外のバス事業者向けダイヤシステムや運行システムなどの販売が好調に推移し増収となりました。

商用車架装業においては横浜車輛工業(株)にて、トラック全体の底堅い代替需要により、カプラ架装の受注や自動車関連部品の販売が増加し増収となりました。

流通業においては(株)神奈中商事にて、原油安の影響による燃料販売単価の下落や、タクシー車両のハイブリッド車化などによるオートガス販売の減少などにより減収となりました。

飲食・娯楽業においては、4月に「らーめん花樂下瀬谷店」をリニューアルするなどお客様満足度の向上に努めました。また、前期にリニューアルを行った「TSUTAYA愛甲石田店」や「ドトールコーヒーショップ上野中央通り店」の収入が順調に推移しましたが、前期に「ミスタードーナツMr.Max町田多摩境ショップ」を閉店したことにより減収となりました。

ホテル業においては、企業・団体への営業活動を強化したことにより宴会の組数が増加しましたが、宿泊部門で訪日外国人旅行者の減少により稼働率が低下し減収となりました。

以上の結果、その他の事業全体の売上高は70億9千2百万円（前年同期比2.9%増）、営業利益は4億3千5百万円（前年同期比34.6%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 財政状態の変動状況

総資産は、戸塚駅東口に建設していた新規賃貸ビルの竣工などに伴い建物及び構築物が増加しましたが、投資有価証券の時価評価額の減少などにより、前期末に比べて2億4千1百万円減少し、1,445億5千7百万円となりました。

負債は、賞与引当金が増加しましたが、借入金の返済が進んだことなどにより、前期末に比べて11億1千2百万円減少し、958億6千3百万円となりました。

また、純資産は、利益剰余金が増加したことなどにより、前期末に比べて8億7千万円増加し、486億9千3百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、概ね計画通りに推移していることから、現時点において平成28年4月27日発表の数値から修正しておりません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### 会計方針の変更

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、これによる当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,344	2,281
受取手形及び売掛金	9,092	8,451
商品及び製品	3,659	4,162
仕掛品	9	5
原材料及び貯蔵品	452	446
その他	3,857	4,298
貸倒引当金	△67	△55
流動資産合計	19,347	19,589
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	79,582	80,355
車両運搬具	41,310	41,319
土地	60,572	60,572
その他	16,722	17,126
減価償却累計額	△94,573	△95,282
有形固定資産合計	103,613	104,091
無形固定資産	884	1,029
投資その他の資産		
投資有価証券	17,765	16,558
その他	3,198	3,299
貸倒引当金	△11	△12
投資その他の資産合計	20,952	19,845
固定資産合計	125,450	124,967
資産合計	144,798	144,557
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,378	6,553
短期借入金	17,406	16,456
未払法人税等	1,098	1,331
賞与引当金	2,053	3,198
その他	12,971	13,635
流動負債合計	40,909	41,175
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	24,260	23,248
役員退職慰労引当金	30	30
退職給付に係る負債	5,178	5,158
その他	16,597	16,251
固定負債合計	56,066	54,687
負債合計	96,975	95,863

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,160	3,160
資本剰余金	693	693
利益剰余金	35,672	37,241
自己株式	△704	△704
株主資本合計	38,821	40,390
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,542	4,683
繰延ヘッジ損益	△292	△198
退職給付に係る調整累計額	△36	△35
その他の包括利益累計額合計	5,213	4,449
非支配株主持分	3,788	3,853
純資産合計	47,822	48,693
負債純資産合計	144,798	144,557

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高		
一般旅客自動車運送事業営業収益	15,155	15,229
不動産事業売上高	1,242	1,293
その他の事業売上高	11,245	11,558
売上高合計	27,644	28,081
売上原価		
一般旅客自動車運送事業運送費	12,378	12,234
不動産事業売上原価	414	708
その他の事業売上原価	8,847	9,185
売上原価合計	21,641	22,128
売上総利益	6,002	5,953
販売費及び一般管理費		
販売費	2,258	2,133
一般管理費	1,269	1,319
販売費及び一般管理費合計	3,527	3,453
営業利益	2,474	2,500
営業外収益		
受取配当金	123	136
その他	83	72
営業外収益合計	207	208
営業外費用		
支払利息	147	111
その他	26	16
営業外費用合計	174	128
経常利益	2,506	2,580
特別利益		
固定資産売却益	11	61
補助金収入	96	147
その他	—	8
特別利益合計	108	218
特別損失		
固定資産圧縮損	90	133
固定資産除却損	6	64
その他	0	4
特別損失合計	97	202
税金等調整前四半期純利益	2,517	2,596
法人税、住民税及び事業税	1,265	1,290
法人税等調整額	△385	△559
法人税等合計	880	730
四半期純利益	1,637	1,866
非支配株主に帰属する四半期純利益	93	81
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,544	1,784



## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位: 百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	1,637	1,866
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△79	△872
繰延ヘッジ損益	49	94
退職給付に係る調整額	0	2
その他の包括利益合計	△30	△775
四半期包括利益	1,606	1,090
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,504	1,020
非支配株主に係る四半期包括利益	102	69

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他の 事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	一般旅客 自動車 運送事業	不動産事業	自動車 販売事業				
売上高							
外部顧客への売上高	15,155	1,242	6,160	5,085	27,644	—	27,644
セグメント間の内部 売上高又は振替高	58	1	337	1,809	2,205	△2,205	—
計	15,213	1,244	6,497	6,894	29,849	△2,205	27,644
セグメント利益	1,363	622	194	323	2,504	△30	2,474

(注) 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、流通業、飲食・娯楽業、ホテル業等を含んでおります。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他の 事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	一般旅客 自動車 運送事業	不動産事業	自動車 販売事業				
売上高							
外部顧客への売上高	15,229	1,293	6,294	5,263	28,081	—	28,081
セグメント間の内部 売上高又は振替高	58	1	558	1,828	2,446	△2,446	—
計	15,287	1,294	6,852	7,092	30,528	△2,446	28,081
セグメント利益	1,631	335	91	435	2,493	6	2,500

(注) 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、流通業、飲食・娯楽業、ホテル業等を含んでおります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。